

スポーツ検定試験の導入に関する研究

トップスポーツマネジメントコース

5010A338 - 5 森重 敦司

研究指導教員：平田 竹男 教授

本研究は、筆者が教育サービスの企業で働き日々子どもと接している中で感じた子どもの運動の機会の減少からくる体力の低下が起こっているのではないかという問題意識をもとに、子どもたちにとって効果的なスポーツテストを検証した研究である。

第1章では研究の背景と目的を述べた。筆者も小中学生のころ学校で受けたスポーツテストは、現在も続いており、文部科学省の長年の努力により我が国のスポーツデータとして、かなり重要なものになっている。しかし、食生活の変化により子どもの体格は良くなっているにも関わらず、子どもがスポーツテストで測った数値は下がり、特に運動能力はどんどん下がってしまっていることに大変危機感を覚えた。また、新体力テストの参加者数が、事業仕分けの影響も受け、毎年対象が減っていることにも大変驚いた。そもそも小学5年生、中学2年生の全対象に受けさせる目的で新体力テストを始めたにも関わらず、3年ですでに対象を減らしてしまっている。そこで、新たにスポーツ検定試験を立ち上げ、子どもの体力、運動能力の向上と健康のために貢献したいと考えた。

以上の背景を踏まえて、スポーツに関して親子が求めているものを調査し、スポーツ関係者にヒアリングし、実際に子どもたちにテストすることで、子どもたちの体力

向上のためのスポーツ検定施策を提示することを研究目的とした。

第2章では、研究手法として、検定試験の親子の期待を抽出するために子どもを持つ親がどのようなスポーツへの取り組みを望んでいるのかを分析するために、スポーツ検定への参加意向と保護者のスポーツに取り組む理由調査、保護者の子どもの運動への意識調査、子どもに取り組ませたいスポーツコンセプト調査の3項目に関してWEB調査を行い、その結果を元に、子どもたちのスポーツ人口の多い、野球、サッカー関係者と生涯スポーツとして、子どもから大人まで愛好者の多いテニス関係者にスポーツ検定についてヒアリングをした後に、実際に検定を受験すると想定される子どもが、楽しく取り組みやすいか、変更すべき点、実施に関しての注意点などを把握するために、WEB調査で評価が高かったコーディネーショントレーニングを参考にした実技に基づくテストを作成し、実施調査することを述べた。

第3章は、研究結果である。WEB調査を行った結果から、スポーツテストに参加したい対象は、非常に多いこと。親子で健康に対しての意識が高いこと。子どものスポーツ能力を測る機会が欲しいこと。潜在能力を知るために試験を望む声が多いことなどが明らかになった。また、参加評価につ

いてもできれば無料でやって欲しいと考えているが、子どもに役立つなら2,000円位まで購入することを考えていることも分かった。また、スポーツのサービス提供に関しては、家族で楽しめることが重要だということが明らかになった。

第4章では、WEB調査を参考にして、スポーツ関係者にスポーツ検定についてのヒアリングを行った。子どもたちのスポーツ人口の多い、野球、サッカー関係者と生涯スポーツとして、子どもから大人まで愛好者の多いテニス関係者にスポーツ検定についてヒアリングを行った。その結果、文部科学省のスポーツテストの基本的な種目を全員に行うことの必要性と合わせて、スポーツそれぞれに必要な能力を測ることの重要性がわかった。

第5章では、これまでの研究結果を元に、スポーツテスト+ α になりうる、7つのコーディネーショントレーニングを元にした新テストを開発し、実際に子どもにテストをした。その結果、検定試験を行う際は、年齢による試験の設定はする必要はなく、能力で測る方向でよいこと。検定試験導入による楽しさと能力がアップすること。子どもたちは、学校で行うスポーツテスト+ α の新テストに対して、再度取り組む意向があることがわかった。

第6章の考察では、①誰もが受けられるスポーツテストの実施案②個別のフィードバックの重要性③情報の発信④スポーツテスト+ α の検定試験と指導法の提示⑤検定試験の事業化についての5つを提示した。

最初に、文部科学省が実施している「体力・運動能力調査（スポーツテスト）」、

『全国体力・運動能力、運動習慣等調査(新体力テスト)』が、気軽に受けられない状況とスポーツテストの参加意向が高いというWEB調査結果を踏まえて、全ての運動をする人の目標になるスポーツ検定を定期的に行うことで、文部科学省の政策を補完でき、スポーツを行う人の目標を作ることができるのではないかということ述べた。また、検定試験を行う上で個人へのフィードバックの重要性と情報の発信の重要性を挙げた。さらに、スポーツ関係者へのヒアリングと実施調査によりスポーツ毎に必要な能力があることと指導法を定義することの必要がわかった。そして、スポーツテスト+潜在能力を測るテストで、楽しさや能力アップにつながり、継続的に実施する意向が子どもにあることがわかった。最後にスポーツテストの事業化に向けて、検定場所の選定も大きな要素であり、検定試験の場所の選定としては、近場のスポーツ施設で行うことが重要であるが、まずは英検・漢検同様、陸上競技場やドーム球場などの会場で始め、後に学校での会場を設定できるような流れの構築が重要であるとした。また、検定試験の内容の具体案と検定試験後の事業展開を提示し、文部科学省のスポーツテストとスポーツの能力に合わせた能力試験は、子どもの体力、運動能力の向上と健康に繋がり、継続的に実施していくことができるのではないかという考察が得られた。

本稿で述べたスポーツ検定試験が、スポーツに取り組む子どもの一つの目標としての検定試験として普及し、体力、運動能力の向上と健康のために貢献できれば幸いである。